

教員寄稿 —お久しぶりです—



臨床心理学教授 橋本和明

先日、高校の同窓会があり出席しました。みんなそれなりに歳をとり、貫禄も風格も出ていて、すでに孫もいる人も数名いました。「懐かしいなあ」と思わず互いに握手をする人もいました。十数年ぶりに会った同級生などは名前と顔が一致せず、「そういやあ、面影があるわ」と笑いながら、その直後にはもう昔話に花を咲かせていました。お酒の勢いもあるのでしょうか？時間を共有するうちに、高校の時に戻ったような感覚になり、十数年のブランクも昨日のように感じられます。私もふと我に戻ると、馬鹿をしていたあの頃に戻っていて、昔の懐かしい自分に出会ったようにも思ったのでした。

同窓会というのは、懐かしさもさることながら、青春時代のほろ苦さも同時に味わい、自分のことを振り返る機会になることが多いように思います。花園大学同窓会通

信には、何年度卒業の同窓会の集合写真が毎回報載っています。皆さんの笑顔を拝見すると、今は見えなくなった傷跡なのかもしれません。その昔はその傷をいたわり合った仲間の姿がどこかに見えるような気がします。

松任谷田実の「卒業写真」という唄をご存じでしょうか？つらくて苦しい時に、たまたま街で見かけた元彼の姿が、卒業写真に写っている姿と変わっていないと感じた主人公は、次のように歌います。

♪ あの頃の生き方を

あなたは忘れないで

あなたは私の青春そのもの

人ごみに流されて

変わってゆく私を

あなたはときどき

速くでしかって

いつしか人は歳をとっていくけれども、同級生との関係はいつまでも歳をとらないのかもしれない。おそらくその中に青春が今も思っているからかもしれませんね。